

# 通級による指導

通常学級に在籍しながら特別な支援が受けられます



授業中や学校生活で、こんなことに困っている子がいませんか。

集中力が  
続きません



計算は得意なのに  
どうして漢字が  
覚えられないのかな



気持ちのきりかえが  
できるように  
なりたい！



人と関わりたいのに、  
うまく話すことが苦手です



通常学級で学んでいますが、特定の部分だけが極端に苦手なんです。



学習や学校生活でうまく力を発揮できるようになるために、  
「通級による指導」で、本人に合った学び方をみつけてみませんか。

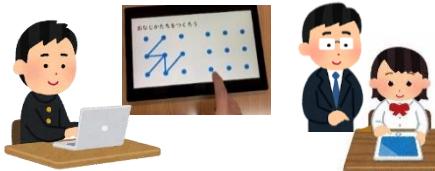
対象  
となる  
児童  
生徒

通常学級に在籍し、おおむね学年相応の学習に参加できるが、  
LD、ADHD等の発達障がいや知的障がいがない自閉症、情緒  
障がい等による学習上・生活上の困難を改善するための特別の指  
導を必要とする児童生徒

## 学べること

障がいに応じた「自立活動」を行います。  
自分なりのできる方法をみつけたり、自分の特性を理解して効果的に練習したり、  
環境にうまく働きかけたりするなど、自分の力を可能な限り發揮して主体的に  
取り組もうとする力や態度を育てます。  
必要に応じて、教科の内容を取り扱いながら自立活動に取り組むことができます。

### 使いやすく工夫した教具を授業でうまく活用する練習



### 気持ちの整理のしかたを身につける



### 将来を見据えた目標設定や振り返りを通して自分のことを理解する

## 障がいに応じた「自立活動」



### 場面に応じた伝え方をロールプレイで学ぶ



### 苦手な言葉を話しやすくなるための練習



教育課程（時間割）に、通級による指導を加えたり、一部変更したりします。  
※障がいの状況等に応じて、月1回～週8回の範囲

#### ●加える場合

通常学級の時間割	通級による指導 (放課後等)
	+ (Red plus sign)

いつ  
行うの

#### ●変更する場合

通常学級の時間割	通級による指導
	→ (Red arrow pointing right) 教科等の時間の一部と変更

※通級による指導では、通常学級の教室や特別支援学級の教室等、指導目標や障がいの状況に応じて、学ぶ場所はさまざまです。

本人・保護者の願いをふまえて「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、計画的に取り組みます。



## 活動例1　自分の得意な方法で学ぶ漢字学習（少人数）

実態 LD。学年相応の学習内容はおおむね理解できているが、漢字を覚えることが苦手。見て記憶するより聞いて記憶するほうが得意。自信がなく、気力がわきにくい。

目標 自分が覚えやすい方法を知り、〇年生までの漢字を書くことができるようになる。

「竹をノせて大わらい」



### 活動名 「自分でつくる漢字記憶カード」

※今学期に習得する漢字の範囲を事前に決め、カードと一覧表を作成しておく。

- ・新しい漢字カードを1枚ひき、覚え方をみんなで考える。（早押しゲーム）
- ※語呂・イメージ・ストーリー作りなど、みんなでアイデアを出す
- ・出たアイデアを参考に、カードの裏に自分の覚え方を決めてメモする。
- ・今まで作った漢字記憶カード（裏にメモ済）を使って、互いに出題し合う。
- ・メモを見ずに、正しく思い出して書くことを3回成功するまで毎時間繰り返す。
- ・クリア（3回成功）した漢字は一覧表にクリアマークをつけ、カードから除いていく。

## 活動例2　自分に合った気持ちの対処方法の練習（個別または少人数）

実態 自閉スペクトラム症。相手の気持ちや場の状況を感じることが苦手。友だちが怒っていることに気づかない、説明されても納得いかない等、学校生活や授業場面で憤慨したり落ち込んだりする。聞いて理解するより、見て理解したりパターンに当てはめて覚えたりすることの方が得意。絵を描くことが好き。

目標 気になる出来事があったら指導者に相談に行き、指導者の解説を手がかりに出来事を図に表して整理し、気持ちを収めることができるようになる。



### 活動名 「4コマストーリーでエピソードを理解しよう」

- ・今週のエピソードを1つ（最初は楽しいことから）、4コママンガ風に表現して報告。
- ・「今週、気になったこと」を、ホワイトボードに図示しながら指導者と考察。（発言、行動、考えを、吹き出しなどを用いてマンガで表現）
- ・エピソードにタイトルをつけ、4コマストーリーブックとして保存、振り返りで活用。

## 活動例3　通級による指導での学びを通常学級で活かす（通常学級との連携）

実態 ADHD。学習内容は理解できるが、必要な学習用具を準備することや、課題にとりかかること、最後までやり遂げることが難しく、力を十分發揮しにくい。読み書きは好きな方だが、落ち着いて書く習慣は身についていない。大事な物をなくす、予定通りすすめにくく等、自分自身にいらだつことが多い。

目標 自分で書いた計画メモを活用して課題をやりとげることができるようになる。



### 活動名 「することリストを授業で使いこなそう」

\*通級の時間：することリストを用いた学習方法を練習。

(①リスト書き出し、②順番付け、③指導者に確認、④学習開始、⑤できた項目を消す)

\*クラス全体での工夫：黒板右上に教科担任が毎回「本時の予定・準備物」を掲示。

\*合理的配慮：特別支援教育センターが「することリスト」がうまく使えるよう支援。

# 通級による指導 Q & A

## Q1 通級による指導は、どのような子どもが対象ですか？

A：通常学級に在籍し、おおむね学年相応の学習に参加できるが、LD、ADHD等の発達障がいや知的障がいがない自閉症、情緒障がい等による学習上・生活上の困難を改善するための特別の指導を必要とする児童生徒が対象です。

【参照】

「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」

文部科学省（平成25年10月4日）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1340331.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340331.htm)



## Q2 通級による指導を受けたいときはどうすればいいの？

A まずは、在籍している学校の担任の先生に相談してください。障がいの状況や本人・保護者の願いを学校が十分に把握したうえで、通級による指導の利用を検討します。今後、在籍している学校での通級による指導を順次拡充する予定です。

## Q3 週に何時間くらい指導を行うの？

A 障がいの状況に応じて、月に1時間から週8時間をこえない範囲で行います。また、指導の継続や終了等を含めて、1年の終わりには指導の振り返りを行う等、児童生徒の障がいの状況に応じた指導を行います。

## Q4 どのような指導や配慮がありますか？

A 通級による指導を受ける児童生徒の障がいの状況は多様です。一人一人の障がいの状況に合わせた指導を行います。また、指導目標と自立活動の内容は個別に設定するのですが、必要に応じて小集団・グループ指導を組み合わせることで、教育効果が高まることも考えられます。

## Q5 宿題が遅れているので個別に指導してほしいのですが、これは通級による指導ですか？

A 通級による指導の目的は、通常学級での学習の遅れを取り戻すことではありません。ただし、必要に応じて教科の内容を取り扱いながら自立活動に取り組むことがあります。

例：本人にあった学び方を身につける。

学習用具や補助具あるいは手引きの使い方を練習する。

質問や発表などの学習スキルを習慣づける。

自信を持って取り組めるよう練習する。

読み書きの基礎を定着させて学習の土台を作る。 等



## Q6 通級による指導を受けると、通常学級の授業に遅れるのではないかと心配です。

A 通級による指導によって、通常学級の授業や日常生活の場面においてうまく力を発揮できるようになります。また、通常学級担任や教科担当、通級による指導の担当が連携して通常学級での学びを支えます。

学校生活のどの場面で通級による指導を行うかについては、学校と本人・保護者とで相談し、障がいの状況に合わせて決定します。通級による指導がうまく機能し、児童生徒の「困難さ」が改善・克服(指導目標の達成)されたら、通級による指導の終了となります。

## Q7 特別支援教育就学奨励費の対象になりますか？

A 他校の「通級指導教室」に通うための移動にかかる交通費のみ、対象となります。